

PHD LETTER

70

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT 1999・3

PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からはじまりました。

- 17期生をよろしくお願ひします……………2P
- マンガで知る世界～インドの漫画家を迎えて…3P
- “静かな力”を感じて……………6P

発行： 財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄
編集人： 藤野 達也
住所： 〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL(078)351-4892 FAX(078)351-4867
定 価： 100円



村を歩いていたら
1台のバイクが
音楽とともに追いかけてきた。
ふりかえるとガジ売りのお兄ちゃん。
一獲千金を狙って、10ルピー払って1枚めくる。
そしたら10ルピーの小当たり。

スリランカ・クルネーガラ県 撮影：FUJINO.T

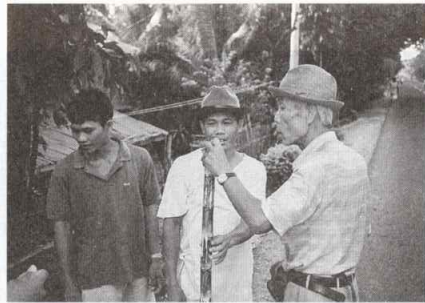
東西南北 問題解決取組 日記

10月△日
99年度生選考を主目的としてかける。タイは北部のメーホンソン県からブリチャーさん(85年)の推薦の女性5人の中から選ぶ。この地域はブリチャーさんを軸にアンポンさん(97年)、現在日本で研修中のサワンさん、ブラチャクさんと男性4人を招いている。チェンマイ県のムシキーだけでなく、ここにもカレンの人々伝統の草木染、手織布のグループがあり、それにかかわる女性が今回の選考対象となった。その中から一番若くて独身のボーディさんを選んだ。あとの4人は既婚者で、本人に意欲があっても、家族の了解が得にくい。

フィリピンはルソン島のヌエバエシーハ州ガバルドンで人選、ネグロス西州の研修生をフォローした。こちらには兵庫県市島町の指導農家一色作郎さんに同行していただいた。選ばれたエドアルドさんは年がいつているけど農業者として実績があり、好感がもてる人柄と面接に立会った一色さん。

ネグロスで訪ねたドミーさん(89年)、ネストールさん(90年)は一色さんのところで研修を受けている。ふたりはそれぞれにグループを組織し熱心に農業に取り組んでいる。ドミーさんはCARB-BAO(カラバオ)という70人ほどの組織で土地の分配、道路整備、水牛購入支援などをすすめている。

ネストールさんは地元農民25人による住民組織、同様の団体5つの協議会の議長、さらにそれらを束ねた同盟の副議長。またKALIBUTANというプロジェクトの野菜担当と多忙。持続可能な農業、土地改革、環境保全に取り組んでいる。ふたりの活躍ぶりに一色さんもよくやっていると評価、研修生のお世話をした他の日本人にも、もっと現地を訪ねてやって欲しいと話しておられた。



一色さん(右)に報告をするドミーさん(中央)、ネストールさん(左)

11月×日
フィリピンのカウンターパートのひとつであるSAFRUDI(サフルディ)のスタッフ、リンダ・ネリーさんが来日した。前にもふれた国際協力事業団(JICA)と関西NGO協議会との共同事業「NGO連携による参加型村落開発コース」でPHDからの推薦が通り、アジア6か国11人の中の一員としての来日である。大阪で行われたこのコースの実施には私も委員として加わり、また一泊二日で兵庫県丹南町、市島町、小野市をま

わった農業視察を調整、同行もした。約40日間の日程のうち週末を利用して、神戸にも足を運んでもらった。丁度その日はタイの布を支援するグループ「ソディ」の例会日で、フィリピンの手工芸品による村づくりを例に、助言をしてもらった。こちらから協力できること、むこうからしてもらえ、両方があっていい滞在となった。

1月〇日
タイスタディツアーの後、年明け早々スリランカへ。私にとっては10年ぶり。クルネーガラ県ボヤワラーナ村で、この地域のとりまとめをしてくれたチャールス・アビクーンさん(87年短期)と村へむかう道中話をする。シンハラとタミールの争いは継続し、解決の目処がたっていない。特にタミールの青少年が戦闘するための徹底した教育を受けていることを聞き、教育がある・ないだけではなく、その中身が大切であることを思った。

村につくと帰国研修生が続々と訪ねてきてくれ、ナンダナさん(91年)、ニーラカンティさん(87年)、アジャングさん(88年)が元気な顔を見せてくれた。米作中心の農村だが、農業だけで食べていくことは大変なようで、研修生もいろいろと苦労している。アジャングさんの野菜グループは、洪水で水につかった野菜が伝染病の疑いありと報じられたことで売れなくなり、大きな損害を被ったと話してくれた。これにくじげずにがんばってほしい。

総主事代行 藤野達也

今年もやります、アジアへの旅!

今年も夏冬、学校の休みの時期にスタディツアーを企画しています。ぜひ研修生の地域を訪ねて活動を知って下さい。一味違った体験となること請け合いです。また国際交流、生活体験のプログラムとしても良し…PHDを使ってみましょう。詳しくは案内を送ります、ご連絡を。

- 第3回 ビルマ 7月21日～29日 8泊9日 約25万円
- 第5回 スリランカ 8月6日～13日 7泊8日 約28万円
- 第13回 インドネシア、スマトラ 8月21日～30日 9泊10日 約25万円(研修生選考含む)
- 第16回 タイ 12月23日～31日 8泊9日 約19万円

*定員は各ツアー13名、日程は予定、変更することがあります。

◇◇17期生を よろしく願います◇◇

ボーディ・
ファイサップディーさん
(21才・女性)



タイ メーホンソン県メー村
研修内容: 洋裁・保健衛生
16期サワンさんの村から車で10分程奥の村の出身。この地域から初の女性研修生。手織布のグループにも加わっています。

*もう一名をバブア・ニューギニアから予定していましたが、家庭の事情によって急きよ辞退となり、現在調整中です。

エドアルド・アコスタさん
(46才・男性)



フィリピン ヌエバエシーハ州ガバルドン
研修内容: 農業
毎年3月に比較研修を行う地域の出身。サフルディの推薦。一時期村のコーディネーターをしていました。村では農業を多用しない方法で孤軍奮闘しています。

ダスウィルさん
(29才・男性)



インドネシア 西スマトラ州タベ村
研修内容: 農業
スマトラからは11人目。初めての農業研修生。州都パダンから車で半日、人口2千4百の山村に住んでいます。主な農作物は米とサトウキビ。

伝統的な農法、生活の変化がもたらすもの

第15回タイフォローアップ&スタディツアー報告

98年12月23日～99年1月2日

年末年始恒例のタイスタディツアーに出かけました。指導者を含む14人が参加。帰った研修生の村、99年度研修生のボーディさんの村も訪ねました。参加者おふたりのレポートの抜粋を紹介します。

平尾 栄治(神戸市・
農業技術センター職員、研修指導者)
チェンマイ県サムン郡ボックオ村は北タイの中心都市チェンマイから車で約3時間、標高1,100mの周りを山に囲まれた盆地状の地形で昼夜の気温較差が大きく水稲をはじめ、野菜類の栽培に適し、おいしくて品質の良い農産物の一大供給地として政府、大学の研究機関もあり発展を続けている。

この村では、PHDの研修生のコマさん(第5期)が村のリーダーとして活躍している。北タイの山岳地帯では、数十年前までは、現金収入源としてアヘンの原料となるケシの栽培が盛んに行われていたと聞かすが、現在では王立プロジェクト等による定着農業を奨励している。中でもボックオ村は当初トマトの導入を図ったが連作による病虫害の多発で断念し、以後はいちごに切替え現在に至っている。(中略)作付け面積は一昨年来た時よりも更に周辺地域まで拡大しており、北タイ最大の産地になった

とコマさんは笑顔で答える。その一方、近年、特に一昨年以降病害の発生が顕著で収量も減少傾向にあるという。その分、農薬の散布回数も増え、このままではトマトの二の舞になるという。

北タイの山岳少数民族の伝統的な農法だ



村の人からいちごの説明を聞く

けでは、生産性が低く、増加する集落人口のすべてを養いきれない現状である。山を下り、低地での水田農業に従事するものの持続的な農業生産を行う上で、大洪水や病虫害の大発生など自然条件は酷しく、また流通上の課題も数多く残っている。焼畑農業など彼等の伝統的な農法からの離脱が今後どのような影響を与えるであろうかと注目しつつ、一方で豊かな自然環境に順応

▷▷マンガで知る世界——インドの漫画家を迎えて

マンガを通して、アジア・南太平洋地域についての理解を深めたいと、関西NGO大学にゲストで来日していたインドの風刺漫画家ビジャイ・セスさんを迎えて、頌栄人間福祉専門学校(神戸市)で『マンガで知る世界、そしてインド』と題するワークショップを行いました。

同時期に『トライやるウィーク』(兵庫県下の中学校で一斉に実施されたプログラム)をPHD協会でも受け入れ、その4人の中学2年生も参加しました。

セスさんは風刺漫画は子どものお遊びでなく芸術の一部だと考えている。医療、コンピュータ、商売、情報技術、電気などの雑誌に描く一方で、公害、森林伐採、環境、貧困、開発、識字などをテーマにも描いている。

たったのコマで勝負するマンガで訴えるには、世の中の見方が大切。インドでは生活の中で歩く場面が多く、自然と色々なも

のが目に入る。また露天に並ぶお店の人のやりとりなど、題材は豊富。いつでもどこでもひらめきを書き留めることと、音楽や絵画でリラックスすることでうまくバランスがとれている。

彼にとって、日本は初めて訪れたアジアの国。短期間の滞在中、鋭い観察眼で日本を斬っていた。自分の身をそこに置くことで見えてくることもある、人に出会い気持ちを伝えることが大切。いくら技術や機械などが発達しても、達成できないこと——それは人のつながりだと思ったとのこと。

一方で、日本について、インドの人の持っているイメージを聞くと、自動車であり大きな会社の名前であり、輸出国でありとその人はなかなか見えてこない。

「インドは発展途上国だと思っていたがセスさんの話を聞いて、インドは進んでいる国だと思った」という中学生の感想に、セスさんは「日本について雑誌やテレビなど

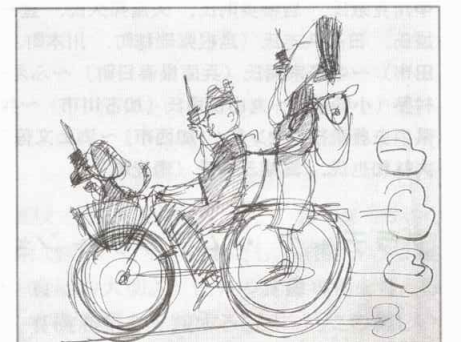
した、負荷の少ない新しい農業技術の開発への取組みの必要性を今回、2度目の訪問で心に強く感じた。

森 やよい(神戸市・学生)

私は今でこそ神戸という街で大学生として忙しく、便利に生活しているが、実家は、愛知県の山奥作手村、根っからの田舎もんである。高校まで18年間コンビニもないところで生活してきた。このことがどれだけ私のコンプレックスであったか皆さんは理解できるであろうか。ボックオ、ムシキー、ホイマヌーン、ドーイ、どの村も電気がきていた。テレビ、ラジオを通して街から情報が入ってくる。便利な生活、華やかな生活に憧れを持つのは当然であろう。現に私がそうだったのだから。若者が街へ出ていく、帰ってこない、過疎の問題は深刻である。村で歓迎され、1泊2日の生活を共にしたからと言って何がわかるのだろうかと思う。ゆっくり流れる時間、太陽と光と共に生活、家族のような地域のコミュニティ。言葉が分からなくなつて気持ちは通じることも実感した。しかし、私はもっと知りたい。何を感じて、考えて生きているのか。夢はナニ? ナニに一番困ってるの?



からの情報で自分が知っていると思っていたがそれだけではない。自分で来て、自分の目で見て初めてわかるものもあると知った。ぜひあなたも将来、自分でインドに来てみてほしい、その時には案内するよ」とのことでした。



日本の印象をマンガにしてもらおう…(自転車に乗っている人、子ども犬までがそれぞれ携帯電話を持っている図・・・)

* マンガを使っての新しい物品を企画中です。お楽しみに!

研 修 生 レ ポ ー ト

16期生

サビトリ・バストーラさん

ネパール

高橋武子氏/山口久則氏、芝美代子氏（兵庫県三木市）～あい・ネパールの会、藤田公美氏、村木節子氏、中谷繁子氏、中村博子氏（下関市）～東日本研修旅行～吉田淑子氏/矢野正史氏（西宮市）～越田恵子氏（神戸市）～下吉富久子氏（兵庫県丹南町）～丸山悦司氏（加古川市）～西日本研修旅行～岩佐康子氏（姫路市）

ゲオリ・カピンさん

パプアニューギニア

牛尾武博氏（兵庫県市川町）～鴻谷美江子氏（神戸市）～雑賀小学校、上南部中学校、北山敏和氏/喜多孝司氏、岩本明博氏、和歌山県海友会（和歌山市、日高郡）～ふえろう村塾（兵庫県小野市）～丸山悦司氏（加古川市）～岩佐康子氏（姫路市）



交流会で自分のグループの説明をするサビトリさん

サワン・ナンタボーリスさん

タイ

中川克敏氏、岩根英則氏、矢富邦久氏、豊田武雄氏、日高久志氏（島根県瑞穂町、川本町、益田市）～中野宗嗣氏（兵庫県春日町）～ふえろう村塾（小野市）～丸山悦司氏（加古川市）～兵庫県中央農業技術センター（加西市）～淵上文徳氏、大林和也氏、真柴三幸氏（南光町）

プラチャク・ムアンチャンさん

タイ

田中利男氏、佐藤忠吉氏、木次乳業株式会社（島根県木次町）～兵庫県中央農業技術センター（兵庫県加西市）～山口勝弘氏/田辺一氏（南淡町）～丸山悦司氏（加古川市）～淵上文徳氏、大林和也氏、真柴三幸氏（南光町）

共通研修

明石協同歯科（明石市）～上田弓子氏（神戸市）～井上由美江氏（神戸市）～保田茂氏（神戸市）～釜ヶ崎キリスト教協会（大阪市）～本野一郎氏（神戸市）～淡路島モンキーセンター、山口勝弘氏（洲本市、南淡町）

東日本研修旅行

美浜北小学校、光照寺、美浜南小学校（福井）～七寺、宝泉寺/アユス東海（愛知）～中濃教会、PHDひだ友の会、国際ソロプチミスト高山（岐阜）～富永楓氏、小林真理氏、塩尻めぐみ幼稚園（長野）～甲府カトリック教会、山梨英和学院（山梨）～アユス、梅ヶ丘教会、関東国際高校、全日本自動車産業労働組合総連合会（東京）～八千代台教会（千葉）～PHD鎌倉交流会（神奈川）～中京大学、六名小学校（愛知）～国際ソロプチミストかかみ野（岐阜）

西日本研修旅行

カトリック青年の家、ネットワーク野田/感応寺（鹿児島）～水俣病センター相思社、浜元二徳氏（熊本）～下郷農業協同組合（大分）～犬養光博氏、庄内町生活体験学校、赤坂保育園、庄内小学校、庄内中学校、北九州YMCA、祝町小学校、アジアを考える会北九州（福岡）～梅光女学院、あい・ネパールの会、下関丸山教会（山口）～広島YMCA、久保浦寛人氏、広島県立大学、三良坂駅前老人集会所、上野教会、日影館高校、三良坂小学校（広島）～ホワイトハウス、田滝小学校、東予ロータリークラブ、聖マリア幼稚園、松山古町教会、新居浜ロータリークラブ（愛媛）～岡山YMCA、おはようナーム、岡山瀬戸内ロータリークラブ（岡山）

1月に入ってから、農業、保健衛生の知識、技術を学ぶことに加えて日本の社会から学ぶ研修も行なっています。

研修生は、日本ではどこへ行っても電気、ガス、水道、道路が整備されていることに驚き、ほとんどの人が学校や病院に行くことができることを良いと感じています。けれども、日本の暮らしは便利で豊かになる一方で色々な問題もあることを水俣、釜ヶ崎を通して学びました。研修生の村には、今後様々な情報や物が入ってきます。そうすると欲しい物やサービスがたくさんできてきます。それはどこの国の人も村の人も思うことです。プラチャクさん、サワンさんの所では、豊かな暮らしを求めて村を出て、都会へ行く人が増えつつあります。ゲオリさんの村にはまだ道路が通っておらず、今はそういうことはありませんが、将来はきっと

同じように考えて都会へ出ていく人もいます。その時に、日本で学んだことを実際に見たり、経験したりしていない村の人に伝え、今の生活の良い所を守っていくことは容易ではありません。けれども、4人はサビトリさんの推薦者であるラダさん（2期生）のように日本での研修の後、長い間頑張り続けている過去の研修生の話聞いて、また、日本の中で問題を解決しようと頑張り続けている人たちに会い、私たちが速くはできないけれど、ゆっくり長く頑張ることはできるから、頑張ろうと話しました。

*以下に少し抜粋してお届けします。



水俣病歴史考証館で説明をきく

プラチャク「私たちは欲しいものはたくさんあります。でも欲しいものと大切なものは時々違います。それを考えるのは欲しいものがたくさんある時は難しいです。でも、日本と同じ問題は困ります」

ゲオリ「私は釜ヶ崎を見たら、悲しくなりました。私たちの村では、困った時、病気の人、おじいさん、おばあさんはみんなでお話しします。みんな農業をしているから食べるものは大丈夫です。お金だけ欲しいはだめだと思えます」

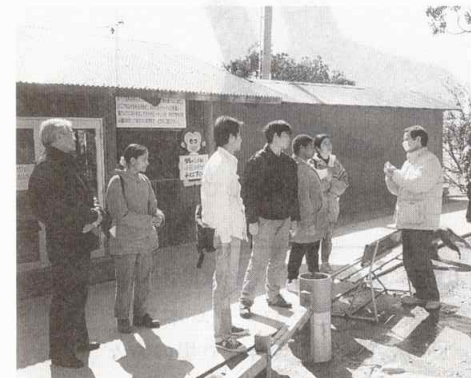
サビトリ「でも、学校とか病院とか、そのためのお金は大切でしょう？」

プラチャク「忙しい時はお金以外のことを考えるのはあまりできません。家族とか友達と話し合う時間もない」

ゲオリ「私は日本はどこでもPeace（平和）とHealth（健康）とhuman-Development（それをつくる人）があると思いました。でも、ない所もあるとわかりました。私たちは自分の国がPeaceとHealthの国になるように頑張りますから、日本の人も日本が本当にPeaceとHealthの国になるように頑張ると言いたいです」

サビトリ「日本の人はネパールとか色々な国

の手伝いはとてもたくさんしています。自分の国の手伝いも頑張ってください」
サワン「帰ってから、日本のことを村の人に教えて頑張りましょう」



淡路島モンキーセンターにて

4人は、1年間の研修を整理、まとめた後、3月9日に日本を離れ、フィリピンでの比較研修旅行に出かけます。

第8回 日韓農民交流

来日メンバー

- 金英源（キムヨンウォン 団長、通訳）
- 金源模（キムウォンモ 稲作、野菜、平茸）
- 金平煥（キムヒョソファン 稲作、野菜、豚）
- 陳演春（ジンヨンチュン 稲作、野菜、牛）
- 金重鎬（キムジョンホ 稲作、野菜、牛）
- 張英淳（ジャンヨンスン 公務員、稲作）

来日～浅田大輔氏（兵庫県丹南町）～橋本慎司氏（市島町）～吉田吉彦氏（氷上町）～一色作郎氏（市島町）～中野宗嗣氏、春日町国際交流協会（春日町）～「食と農を考える交流会」/榎田勲氏/神戸学生青年センター、日本基督教団兵庫教区社会部委員会（神戸市）～淡路島モンキーセンター（洲本市）～山口勝弘氏（南淡町）～食品公害を追放し安全な食べ物を求める会/信長たか子氏（宝塚市）～保田茂氏（神戸市）

今年も韓国（忠清南道洪城郡）の洪城正農会から有機農業の生産者を迎え、生産者、消費者との交流、見学を行いました。今年、初めて新規就農者として、ソウルから洪城に

“静かな力”を感じて

国内研修生 鬼木 たまみ

PHD協会の事務所は、お世辞にも広いとは言えないスペースに、資料や写真、タイの布、パソコンなどが所狭しと置かれ、その中で職員やボランティアの方々が動き回るといふ熱気や雰囲気でも包まれている。

民間の国際協力団体（NGO）の活動に関わりながら運営について学びたいと思っていた私は、昨年10月から国内研修生としてPHD協会での研修を受けることができた。

研修は事務所内で資料や写真などを整理することから始まった。PHD協会が設立された頃の手書き文字の機関誌をはじめ、研修生のファイル、スタディツアーの写真など興味深い資料に触れることによって、「国際協力」や「NGO」という言葉が耳慣れない頃の活動の苦労や試行錯誤がうかがえ、膨大な量の資料や写真がそのままPHD協会の活動の歴史なのだといふことができた。

一方、PHD協会の活動は、趣旨に共感する「一人ひとり」の力によって、支えられ続けてきたことも実感できた。事務作業を手伝う人、会費や寄附としてお金を差し出す人、研修生の指導者やホームステイの家族など、関わり方は様々だがその力は設立当初も今も変わらないように思えた。一人ずつの「静かな力」が集まることの可能性を知ることができ、勇気づけられた半年間だった。

「毎月の小遣いを少しずつためたものを募金として送ります。研修生のために使ってください」ある協力者の方から電話で伝えられた。この思いやお金を受けとめ、預かるNGOの責任は重く、役割は大きい。PHD協会での多くの「出会い」に感謝しつつ、毎日の生活の中から、自分ができることを行動に移していきたい。私自身も「静かな力」になれるように。

入った生産者が加わりました。日本と韓国の農業を取り巻く事情はよく似ていますが、それだけにお互いよく分かりあい、短期間ながら深い交流となりました。以下にメンバーからのレポートの一部を紹介します。

陳演春

30年間の都市での生活を終え、昨年洪城に帰農しました。

日本で多くの有機農業の生産者、消費者、また、研究者に会い、話を聞き、多くのことを学ぶことができました。有機農業を実践する農家の考え方、実践も自然と同じように多様なものでした。けれども、その根底にある精神は同じです。物が全てという現代文明にただ従うのではなく、人間がお金よりも大切だといふ考え方です。お金が中心の現代では、もうしばらく耐えることが必要でしょう。農業を取り巻く事情は厳しいです。けれども、消費者の目覚め、自給の大切さ、世界の食糧事情を考えると、有機農業を実践することによりこの厳しい事情に対応していくことができるでしょう。

見学、講義、交流など、ご協力下さいました皆様へ深く感謝いたします。ありがとうございました。



市島町にて

金重鎬

日本と韓国の状況には違いはありますが、農民の心は全く同じで、とても嬉しく思いました。日本の消費者が農業に対してよく理解し、高い意識を持ち、農民とつながりを持っているということがとても羨ましく感じました。有機農業が根づくためには、生産者、消費者両側の役割と努力がどんなに大切かを実感しました。

PHD NEWS

◇会費・ご寄附寄託状況

1998年	11月	136件	11,795,495円
	12月	825件	7,068,579円
1999年	1月	221件	2,449,673円
		1,182件	21,313,747円

今年度も前号69号の本紙上で、年末募金をお願いをいたしました。以上の通り皆様より多くの会費とご寄附を頂戴いたしました。皆様のご協力に心より感謝を申し上げますとともに今後も一層のご支援よろしくお願ひします。

○月×日のPHD協会

職員 伊藤 その昔、初めてのコンピュータ導入時は業者まかせで高かった。今回入替は、私とボランティアM氏とで超コストダウン。鼻高々。

職員 藤野 人の顔、名前の覚えの悪さの指摘はあったが、加えて出来事、事柄の記憶もあぶないらしい。中年太り、老眼の気と押しよせる。乞う、いたわり。



編集後記

PHD協会とシルバーカレッジのボランティアグループであるロビーの会とお付き合いは、1997年7月より約2年、1ヵ月に1度事務所に行き、クーポン類の集計整理や会報発送等を人海作戦でお手伝いをしてきました。研修生の方との親近感も深まり、1度振

◇ご支援に感謝申し上げます

アユス＝仏教国際協力ネットワークよりいただいているNGO人材支援事業助成金を本年も引き続きいただけることとなりました。継続したご支援に心よりお礼を申し上げます。

◇みんなで作ろう——新しいページ

研修生のこと、PHDの活動についてより多くのことをお伝えしていきたい、また皆さんからの意見を活動に活かして紙面での交流、情報発信をさらに進めるため、99年度より再度増頁を企画します。12月、3月のところで予定しますが、今からアイデア、投稿、感想・意見、お手伝い・・・ぜひ皆さんの知恵や力、時間を貸して下さい。興味ある方、ご連絡待っています。

職員 小松 例年、新年度計画、予算立案時期は表情陰しく、元気半減になるはずが、妙に今年は余裕。不気味に思ってた、ちゃんと腰痛がでて、おちつく。

職員 田中 帰国間近、1年のおつきあいのサワンさんにまさかとは思いつつ「私の名前は？」と尋ねる。だいぶあつて「しょくいん」との返事に力、抜ける。

袖を着せてあげようと、女子会員で話がまとまりました。そして今年のお正月に、サビトリさんとゲオリさんをお誘いしました。小柄なサビトリさんには、オレンジの絞りの着物に黒地の帯、陽気で体格のよいゲオリさんには白地に大柄の菊の花模様の着物にオレンジ色の扇面の帯を結びました。2人とも1度着てみたかったと、体中で喜びを表し、着付けの間中「うれしい、うれしい」を連発、何度も抱きしめてくれました。慣れない足袋に草履で心配しましたが、上手に歩かれ、近くの神社にお参りし、サビトリさんの成人

◇来たれ!! 国内研修生

海外の人材のみならず国内にも平和と健康を担う人を育成しようと95年から実施している国内研修生。今年も10月からの6ヵ月間、1名を募集します。詳しい内容については、お問い合わせください。

PHDくつ下を買って国際協力しよう!!

価格 600円
カラー：紺・白・グレー
サイズ：フリー
(25cm～27cm)



チラシを同封しています。ご覧ください。

職員 山西 就任5ヵ月。兵庫県内研修旅行に同行、啓発プログラム本格デビュー。いろんな種類の会合、立場の方々を前に実は胸ドキドキ、汗かきかきだそう。

職員 谷 親身になってのお世話が身上の研修業務。それから得られる今年度の技はゲオリさんとサビトリさんの声帯模写。帰った後もなつかしむのに便利。

(間食の多い順)

式も祝ってあげる事ができました。夕食を共にし、ささやかな国際親善の1日に心暖まる思いで帰路につきました。

PHD協会での作業日は、ボランティア活動にかかわった充実感と、ロビーの会会員相互のコミュニケーション作りの場となり、今後も続ける事により、何らかのお役に立ちたいと、願っております。

シルバーカレッジロビーの会3期生

編集メンバー：井上由美江、円城啓彰、野添智子、宮本雅樹、吉岡浩、芳田弓生希

新規会員・寄付者ご芳名は、個人情報保護のため掲載しておりません。

新規会員・寄付者ご芳名は、個人情報保護のため掲載しておりません。